

- 問1 1895年に結ばれた下関条約において、日本は清から台湾や澎湖諸島などの領土を譲り受けましたが、その直後にロシア・ドイツ・フランスの3国から圧力を受け、やむなく清に返還することになった地域はどこですか。 (2021年 福岡県公立入試 類似)
1. 遼東半島
 2. 台湾
 3. 澎湖諸島
 4. 江華島
- 問2 1894年に陸奥宗光外相がイギリスとの間で調印し、長年の課題であった不平等条約の改正を大きく前進させた内容として、正しいものはどれですか。 (2015年 佐賀公立入試 類似)
1. 領事裁判権を撤廃し、日本国内の外国人に対しても裁判権を行使できるようにした。
 2. 関税自主権を完全に回復し、日本が自由に輸入関税の税率を決められるようにした。
 3. 下関条約により、遼東半島や台湾を領有することを国際的に認めさせた。
 4. ポーツマス条約の締結により、樺太の南半分を日本領とすることを確定させた。
- 問3 ポーツマス条約によって日本が獲得した「南満州鉄道」などの利権をめぐる、その後の日本の大陸政策がどのように変化したか、背景や目的を含めた説明として正しいものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
1. 獲得した鉄道や租借地を運営するため「南満州鉄道株式会社」などを設立し、大陸進出の拠点とした
 2. アメリカの提案を拒否して鉄道の単独経営を強行したため、国際連盟から即座に脱退を勧告された
 3. ロシアとの共同経営を行うことで、清との軍事的な衝突を回避する緩衝地帯として活用した
 4. 獲得した利権をすべて清に返還することで、アジア諸国との連携を深める「アジア主義」へ転換した
- 問4 明治維新後の日本において、岩倉使節団の一員として欧米の諸制度を視察し、帰国後は大日本帝国憲法の制定に尽力するとともに、1885年に創設された内閣制度において初代内閣総理大臣に就任した人物として正しいものを選びなさい。 (2023年 岐阜公立入試 類似)
1. 伊藤博文
 2. 板垣退助
 3. 大久保利通
 4. 大隈重信
- 問5 明治時代の産業革命が進む中で、製糸工場などで働く女性や年少者の過酷な労働実態が社会問題となりました。これを受けて1911年に制定された、日本で最初の労働者保護法を何と称しますか。 (2024年 愛媛公立入試 類似)
1. 工場法
 2. 労働基準法
 3. 治安警察法
 4. 国家総動員法
- 問6 明治時代に設置された「帝国議会」に関する説明として、その性質を正しく述べているものはどれですか。 (2019年 広島公立入試 類似)
1. 明治政府が欧米の近代国家に倣い、憲法に基づいた政治を行うために設置した日本最初の国会
 2. 武士による合議制を復活させるために、江戸時代の評定所を改めて設置された機関
 3. 全国の労働者が団結して、労働条件の改善を政府に直接要求するために作られた組織
 4. 廃藩置県によって失職した旧大名たちが、新しい領地を決定するために集まった会議
- 問7 明治時代、足尾銅山から流出した有害物質が渡良瀬川周辺の農地や人々に甚大な被害を及ぼした「足尾銅山鉱毒事件」において、被災した農民の窮状を救うために衆議院議員を辞職し、明治天皇に直接訴え(直訴)を行おうとした人物は誰ですか。 (2018年 岐阜公立入試 類似)
1. 田中正造
 2. 板垣退助
 3. 大隈重信
 4. 渋沢栄一
- 問8 1886年にイギリスの貨物船が和歌山県沖で沈没した際、日本人乗客全員が溺死した一方で、イギリス人の船長や船員は救命艇で脱出しました。この事件において、外国人が日本で犯罪を犯しても、その国の領事が裁判を行う制度によってイギリス人船長が軽い刑となったことで、不平等条約の改正を求める世論を大きく高めることになった出来事を何と称しますか。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
1. ノルマントン号事件
 2. 日比谷焼打ち事件
 3. 生麦事件
 4. マリア・ルス号事件
- 問9 日清戦争後の日本の産業革命において、重工業の発展を象徴する官営製鉄所の設立背景を説明した文として、正しいものはどれですか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
1. 下関条約で得た賠償金を元手に、北九州に建設された。
 2. 日露戦争の勝利によって得た賠償金を元手に、北九州に建設された。
 3. 欧米列強からの借款(借金)を主な財源として、北九州に建設された。
 4. 地租改正による増税分を主な財源として、北九州に建設された。
- 問10 1890年から1900年にかけて、日本の鉄道営業線が大きく拡大した背景として、この時期の産業の動向をふまえて説明したものとして適切なものはどれですか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
1. 軽工業を中心とする産業革命が進展し、原材料の輸送や製品の全国的な流通が必要になったため。
 2. 高度経済成長に伴い、都市間を結ぶ新幹線網の整備が国民の生活において不可欠となったため。
 3. 世界恐慌に対応するため、政府が公共事業として鉄道建設を行い失業者の救済を図ったため。
 4. 重化学工業の発展に必要な鉄鉱石や石炭を、海外から輸入するための港湾設備と鉄道を直結させる必要があったため。
- 問11 大日本帝国憲法下の統治体制において、立法権を担う帝国議会は構成していた二つの議院の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2024年 山口公立入試 類似)
1. 衆議院と貴族院
 2. 衆議院と参議院
 3. 元老院と衆議院
 4. 立憲政友会と憲政本党
- 問12 大日本帝国憲法下の帝国議会は、衆議院と貴族院の二院制をとっていました。この二つの議院の関係や仕組みについて説明した文として、正しいものを次の中から選んでください。 (2021年 三重公立入試 類似)
1. 衆議院は公選(選挙)によって選ばれた議員で構成されたが、貴族院は皇族や華族、天皇に任命された議員などで構成されていた。
 2. 衆議院と貴族院はどちらも、満25歳以上のすべての男女による普通選挙によって選出された議員で構成されていた。
 3. 衆議院には予算先議権が認められておらず、すべての法案や予算案は必ず貴族院から先に審議を始めなければならなかった。
 4. 衆議院で可決された法案が貴族院で否決された場合、衆議院で3分の2以上の賛成があれば、貴族院の議決を無効にできた。
- 問13 1872年の鉄道開通から1965年の名神高速道路全線開通までの交通の発展と、当時の国際情勢を整理した歴史の流れについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2025年 群馬公立入試 類似)
1. 鉄道が日本で初めて開通してから約20年後、朝鮮半島での動乱を機に日清戦争が始まった。
 2. 1894年に日清戦争が始まると同時に、日本国内では東海道新幹線が全線開通した。
 3. 日露戦争の終結直後に、甲午農民戦争をきっかけとした日清戦争が勃発した。
 4. 名神高速道路が全線開通した1960年代に、日本は清との間で日清戦争を戦っていた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 遼東半島	日清戦争に勝利した日本は、下関条約によって遼東半島、台湾、澎湖諸島を獲得しました。しかし、東アジアへの進出を狙っていたロシアは、ドイツ・フランスと共に日本に対して遼東半島を清へ返すよう要求しました。これを三国干渉と呼び、日本はこの要求を受け入れることとなりました。
問2	答え 1 領事裁判権を撤廃し、日本国内の外国人に対しても裁判権を行使できるようにした。	明治政府は、欧米諸国に認められていた領事裁判権（治外法権）の撤廃を求めて交渉を続け、1894年の日英通商航海条約によってようやくその合意を取り付けました。これにより、日本国内で外国人が犯罪を犯した場合でも日本の法律で裁くことが可能になり、日本の国際的地位が向上しました。なお、もう一つの課題であった「関税自主権の回復」が完全に達成されるのは、さらに後の1911年（小村寿太郎外相の時）となります。
問3	答え 1 獲得した鉄道や租借地を経営するため「南満州鉄道株式会社」などを設立し、大陸進出の拠点とした	日本はポーツマス条約で得た鉄道の利権を管理・経営するため、半官半民の「南満州鉄道株式会社（満鉄）」を設立しました。この会社は単なる鉄道事業だけでなく、沿線の開発や炭鉱運営、さらには調査機関としての役割も担い、日本の中国東北部（満州）への進出を支える重要な柱となりました。アメリカからは鉄道の共同経営提案（ハリマン案）がありましたが、日本側がこれを拒否したことは、のちの日米関係の悪化の一因となりましたが、国際連盟の脱退はさらに後の1930年代の出来事です。
問4	答え 1 伊藤博文	長州藩出身の彼は、岩倉使節団への参加を通じて西洋の近代国家を目の当たりにし、その後、ドイツ（プロイセン）の憲法を範として大日本帝国憲法の起草を主導しました。1885年には内閣制度を確立させ、自ら初代内閣総理大臣に就任することで、日本の立憲君主制の基礎を築きました。選択肢にある大久保利通は使節団に参加していますが内閣制度発足前に亡くなっており、板垣退助や大隈重信は使節団の期間中は留守政府を預かっていました。
問5	答え 1 工場法	日清・日露戦争を経て産業革命が進展した日本では、安価な労働力として女性や子どもが長時間働かされる事態が常態化していました。こうした状況を改善し、持続可能な生産体制を整える必要があったことから、1911年に日本初の労働者保護法として制定されました。戦後の労働基準法と混同しやすいですが、明治末期に制定された点に注目が必要です。
問6	答え 1 明治政府が欧米の近代国家に倣い、憲法に基づいた政治を行うために設置した日本最初の国会	帝国議会は、自由民権運動の高まりや、国際的な地位向上を目的として、1890年に初めて開設されました。これはアジアで最初の本格的な議会制度であり、憲法に従って政治を行う「立憲政治」の根幹をなすものでした。衆議院と貴族院の二院制で構成されており、国民から選ばれた議員（当時は一定以上の納税者に限る）が国政に関与する道が開かれました。
問7	答え 1 田中正造	足尾銅山鉱毒事件は日本初の本格的な公害問題とされています。栃木県出身の衆議院議員であった田中正造は、国会で厳しく政府の責任を追及しましたが、事態が改善されなかったため、議員を辞職して天皇への直訴という命がけの行動を通じて世論に訴えかけました。
問8	答え 1 ノルマントン号事件	1886年に発生したこの事件は、領事裁判権（治外法権）の存在によって日本人が不当な扱いを受けた象徴的な出来事です。日本人乗客が見捨てられたにもかかわらず、イギリス人船長が軽い罰金刑等で済まされた事実が日本国民は憤り、不平等条約の改正を求める運動が全国的に広がるきっかけとなりました。
問9	答え 1 下関条約で得た賠償金を元手に、北九州に建設された。	日本は日清戦争の講和条約である下関条約により、清から3億1000万両（テール）におよぶ多額の賠償金を獲得しました。この資金を投じて1897年に官営製鉄所の建設を開始し、鉄鋼の自給体制を整えることで、日本の産業革命は軽工業から重工業へと進展しました。
問10	答え 1 軽工業を中心とする産業革命が進展し、原材料の輸送や製品の全国的な流通が必要になったため。	1890年代は、日清戦争を挟んで軽工業の機械化が進んだ時期です。産業革命によって大量の製品が作られるようになると、それらを全国へ流通させるためのインフラとして、また原材料を工場へ運ぶ手段として、鉄道の重要性が高まりました。1900年までの期間における鉄道の延伸は、こうした産業上の発展と密接に結びついています。
問11	答え 1 衆議院と貴族院	大日本帝国憲法下の帝国議会は二院制を採用しており、選挙によって選出された議員で構成される衆議院と、皇族・華族・勅任議員（天皇から任命された者）などで構成される貴族院の二つが置かれました。現在の国会を構成する「参議院」は、戦後の日本国憲法において貴族院に代わって設置されたものです。
問12	答え 1 衆議院は公選（選挙）によって選ばれた議員で構成されたが、貴族院は皇族や華族、天皇に任命された議員などで構成されていた。	当時の帝国議会は、国民の選挙によって選ばれる衆議院と、選挙によらない貴族院の二院制でした。貴族院の議員には、皇族や華族（かつての公家や大名など）、国に功勞のあった人物（勅選議員）などが含まれていました。両院の権限はほぼ対等とされていましたが、予算を先に審議する権利（予算先議権）だけは衆議院に認められていました。日本国憲法下のような「衆議院の優越」は、当時はほとんど認められていなかったのが特徴です。
問13	答え 1 鉄道が日本で初めて開通してから約20年後、朝鮮半島での動乱を機に日清戦争が始まった。	日本初の鉄道開通は1872年であり、日清戦争が始まった1894年はその約20年後にあたります。東海道新幹線や名神高速道路の開通は1960年代（高度経済成長期）の出来事であり、日清戦争の時期とは大きく異なります。